



船大工
壁谷 武雄

昨年の春、形原神社先代宮司が育てた杉を伐採することを聞きました。私は、永年、船大工として働いており、この機会にこの杉を利用したエーン曳き新造船を作ることを選びました。その後、自宅の作業場ですこつと進め、今年の7月5日、ようやく形原神社に新造船を奉納することができました。

昭和20年代から30年代ごろの形原神社および形原各区の祭礼は、大変にぎやかなものでした。町を練り廻す、七福神踊り(一区)、やとまかせ(大名行列・二区)、エーン曳き(三区)、こおどり(上区)、チャラボコ太鼓奉納(各区)など、私もエーン曳きの親についてよく形原神社にお参りに行ったものです。境内では芝居や相撲、山では打揚

げ花火、花見も練り広げられ、みやげ物屋台もたくさん並び、老若男女が共に楽しみました。

その後、昭和40年ごろにお祭青年団が解体するなど祭礼文化も一時中断しましたが、昭和50年ごろには、厄年会によるエーン曳き奉納が復活。その後も七福神踊りや子供連によるチャラボコ太鼓奉納が復活するなどしました。中でも、厄年会による祭礼参加は、形原神社はじめ各地区の祭礼でも重要な役割を担っています。



私が船大工として働き続けて約50年、木造船を作る機会がなくなった現役卒業間近のこの時期に、縁があって、誰もが使用できるエーン曳き新造船を奉納することができました。蒲郡には竹島、三谷、その他各地で伝統の祭りが行われていますが、ここ形原にもエーン曳きをはじめ色々な祭礼行事があります。これら伝統文化が住民に愛され、末永く続くことを期待しています。



図書館 ☎69・3706

調べ物のお手伝いをします レファレンスカウンター

資料相談専用の窓口が、図書館2階にできました。

読みたい本がどこにあるかわからない、探している資料が見つからない。こんな時は、ぜひ、レファレンスカウンターをご利用ください。

「こんな質問いいかしら…」、「詳しい情報は知らないんだけど…」など、気にせずに質問してください。図書館員が資料を使って探し物のお手伝いをします。

なお、医療・法律相談、宿題の答えなど、お答えできない質問もあります。



いちまゆうはらゆん
「1Q84 BOOK1」
村上春樹／著
新潮社

「こうであったかもしれない」過去が、その暗い鏡に浮かび上がらせるのは、「そうではなかったかもしれない」現在の姿だ…。待望の書き下ろし長編小説。

【子ども向け】



「やいた やいた」
まどかななみ／作
みやにしたつや／絵
鈴木出版

ステーキ、おもち、クリームパン、さんま、はまぐり…。子どもたちの大好きな食べ物をそれぞれ焼いて、色や形、焼ける音を楽しもう。最後にひりひり焼けたのは？